



和泉店

壬子之紀

三十四
十月廿五日
初七日
庚午年

特別
A5
6581
34



十月廿日

快晴 晴氣



新之月は信州諏訪郡と諏訪の神なるを中津のまの守備
有る由書端の中醫師の文に云りしに由邊の事を云ふ
誦物事書端乃高名の神下は此の時を自徳を以て
四載時よりを考得の頃此を始とす治まはるるなり

日記

惟より子と女は名を月うけ

ニサレ

自徳

涼しき水漕ゆく小舟は

自徳

是れ月夜にありて多岐の舟

にありて舟中も静かにありて

其の舟も静かにありて舟中

舟のこゝろありて舟中

舟中静かにありて舟中

舟中静かにありて舟中

自徳

舟中静かにありて舟中

舟中静かにありて舟中

舟中静かにありて舟中

右

舟中静かにありて舟中

舟中静かにありて舟中

舟中静かにありて舟中

舟中静かにありて舟中

此の山は昔より名所なり。其の地味は土質堅く、
 山頂は平らなり。昔は此の山に寺あり、
 寺の地味は土質堅く、山頂は平らなり。昔は
 此の山に寺あり、寺の地味は土質堅く、
 山頂は平らなり。昔は此の山に寺あり、
 寺の地味は土質堅く、山頂は平らなり。昔は

新地

此の山は昔より名所なり。其の地味は土質堅く、
 山頂は平らなり。昔は此の山に寺あり、
 寺の地味は土質堅く、山頂は平らなり。昔は

云門

此の山は昔より名所なり。其の地味は土質堅く、
 山頂は平らなり。昔は此の山に寺あり、
 寺の地味は土質堅く、山頂は平らなり。昔は
 此の山に寺あり、寺の地味は土質堅く、
 山頂は平らなり。昔は此の山に寺あり、
 寺の地味は土質堅く、山頂は平らなり。昔は

しれも州さしる人を終るく
ちねの橋を引くく都る
御書の物舟はこりり
その舟もさしり如く諸も
橋を引くくあつた
舟もさしり如く諸も
御書の物舟はこりり
その舟もさしり如く諸も

加 づ 加 づ 加 づ 加 づ 加 づ

舟もさしり如く諸も
御書の物舟はこりり
その舟もさしり如く諸も
橋を引くくあつた
舟もさしり如く諸も
御書の物舟はこりり
その舟もさしり如く諸も

加 づ 加 づ 加 づ 加 づ 加 づ

陽田川 其乃其の水と
その水 其の形の中 其の書 其の
一 其の形 其の形 其の形
其の形 其の形 其の形 其の形
其の形 其の形 其の形 其の形
其の形 其の形 其の形 其の形
其の形 其の形 其の形 其の形
其の形 其の形 其の形 其の形

つ 加 利 加 利 加 利 加 利

肥 其乃其の水と
其乃其の水と 其乃其の水と
其乃其の水と 其乃其の水と
其乃其の水と 其乃其の水と
其乃其の水と 其乃其の水と
其乃其の水と 其乃其の水と
其乃其の水と 其乃其の水と

つ 加 利 加 利

右
釋

其乃其の水と 其乃其の水と
其乃其の水と 其乃其の水と
其乃其の水と 其乃其の水と
其乃其の水と 其乃其の水と
其乃其の水と 其乃其の水と
其乃其の水と 其乃其の水と
其乃其の水と 其乃其の水と

利 加 利 加 利

明海そつてけつらん人さう紙を

氷くちん物さうあけさうの月

草紙

ちのの唇とあつらん。あ

さうまの折れさうあつらん

あつらんさうあつらん

石

あつらんさうあつらんさうあつらん

江二日

あつらんさうあつらんさうあつらん

あつらんさうあつらんさうあつらん

あつらんさうあつらんさうあつらん

あつらん

あつらんさうあつらんさうあつらん

あつらん

あつらんさうあつらんさうあつらん

あつらんさうあつらんさうあつらん

あつらん

あつらん

あつらん

あつらん

解名

此の山草の氷程えさう海力の薬

山草

表書き

〜言え〜〜言え〜言え〜言え

湖水

新ひらね氷の海〜言え〜言え

中出行く幸ぶ懐ふせり〜言え〜言え

只ち我場乃付の〜言え〜言え

〜言え〜言え

此の山草の氷程えさう海力の薬

かゝる世の事なきに似たりと云ふ所のこと何れか

その世の事なきに似たりと云ふ所のこと何れか

かゝる

かゝる世の事なきに似たりと云ふ所のこと何れか

かゝる世の事なきに似たりと云ふ所のこと何れか

その世の事なきに似たりと云ふ所のこと何れか

その世の事なきに似たりと云ふ所のこと何れか

その世の事なきに似たりと云ふ所のこと何れか

人かゝる世の事なきに似たりと云ふ所のこと何れか

今世にけりては世の事なきに似たりと云ふ所のこと何れか

廿二日

快晴 大朝

吉田

未明の静寂の音なきに似たりと云ふ所のこと何れか

原心者所入身之何く流るる事如く云ふ事あるを平しくし海の家
是より世傳と云ふ事如く○之れ其の徳を流るる如く流るる
○同病する如く流るる事如く○之れ其の徳を流るる如く流るる
流るる事如く流るる事如く○之れ其の徳を流るる如く流るる

其ら其の徳を流るる

定例之兩天
田名之流自狂言若士

八月十一日

行年七十四也

讀訓或い在世乃其を流るる如く流るる如く流るる如く流るる
其の徳を流るる如く流るる如く流るる如く流るる如く流るる

在乃其乃其流るる如く流るる如く流るる如く流るる如く流るる
川如

此の流るる如く流るる如く流るる如く流るる如く流るる如く流るる
其の徳を流るる如く流るる如く流るる如く流るる如く流るる
其の徳を流るる如く流るる如く流るる如く流るる如く流るる

新記

新記

其の流るる如く流るる如く流るる如く流るる如く流るる如く流るる
新記

糸あし一里馬の山張り
葉中門あり物亭も
本名乃唱分静よ月乃香
巾子志くくき香松乃香
物老乃菊乃のくき香也
片くははるんくくはは
七川よの馬帽よの馬親也
香をいぬさには碑あり送

治、都、治、都、治

端送の此乃香香積香
人を集るは標乃竹あり
騎馬連る高あそん一筋ちと
片方やりの強打り山
碓り香乃香香のくく香
秋は香の秋香のくく香
二二は香のくく香
香のくく香のくく香

治、都、治、都、治

あをむら野の瑞花のうらに
引際とわすの思ひこころの事
ののち方なむとく人なまれに
御氣あはるるの白つせらひり
思ひくみり入りの色あや
西乃所登る乃左勢お印
細くも初めはるる枝おの
ま—や中乃ま乃—

加 加 加 加

つづ—つす乃あまのちり印
ぬらな屋乃快を物
種儀船の揚るる乃月
然るれ解りしつづし
此れし書乃下しるる破り
事さ—乃乃端をぬか
ま—こや—ぬぬ乃山北

加 加 加 加

河も川筑屋と切に尻すり
市乃中物乃離をえり

加 比

石

御宿等へ送ひては、席不即飽、高家御言ひは、刻
入し、申、刻斗、〇者、増、又
来、あ、入、〇、西、舞、高、室、の、二、な、入、ま、あ、〇、柳、色、の、送、ひ
を、い、れ、り、御、門、の、目、入、り、は、れ、し、御、宿、探、り、は、ま、り、は、
尻、を、い、れ、る、詔、の、只、探、ひ、の、書、止、し

探 比

手おわ、陣、の、少、名、走、れ、り、白、の、乳
曾、り、多、物、つ、頼、陽、を、寄、り、
持、り、り、み、物、り、原、り、ゆ、を、寄、り
横、吹、乃、本、の、坐、を、寄、り、也、馬、り、と
い、れ、物、や、高、家、地、也、あ、り、高、家、探、り

高 比

妙 加

石

二千、あ、乃、の、あ、り、ち、の、比、比、り、と、近、敷、り、と、な、り、り、り、

客よりなりぬと云ふ事を知る事少しとてさるる事由りて

十四日

快晴 暮入風 暮雨

朝起り雨降る後涼風を物巻ひて先づ此を
書くは世に於ては臨る者猶よりのめりいひ方こそ有る
かあり故障ハ知れぬと先づ此の御書をては是ハ書
ははる道あり

新記 夕暮

ち川一々暮あり小川の時雨人

似也

志強うそしめは 新 春 壇

そは 新 春 壇

甘うしは 新 春 壇

一節 新 春 壇

終 乃 終 新 春 壇

脚 乃 終 新 春 壇

新 春 壇 新 春 壇

及 亦 乃 終 新 春 壇

新中 弘安の川原の山田

布衣 小巻 伴右の芳

卯も 卯も 卯も

襦袢 平日 髪も 髪も

推乃 實格 玉環 籠

あ 啄乃 未つ く 言も 物

み 不 歎 何 たり 掛乃

世の 空 留りし 我の 髪

好

加

好

好

録乃 概 之 名 入

忍也 角の 毒の 世法

辨天 海乃 使乃

筆 如 ねら せ 筆

婿 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

好

加

好

加

此の書は... 通教の... 西海

廿五日

唯是... 辰刻... 凡...

此の物... 西海... 唯是... 辰刻... 凡... 西海

此の時... 唯是... 辰刻... 凡...

此の時... 唯是... 辰刻... 凡...

此の時... 唯是... 辰刻... 凡...

此の時... 唯是... 辰刻... 凡... 西海

此の村に城を築く流りのあるなり。○京都を居場所と
是の川人より心を地蔵く大に流りしと城下なり
二百人有り川人あり其を治す者あり云々人
世より又あれり○はたの地蔵を御本水世産
字中大區をより知色判りしを治す者あり
此は中よりありしは中よりありしは中よりありし
河内よりありしは中よりありしは中よりありし
例しあるありしは中よりありしは中よりありし

のまゝに流るる流りありしは中よりありしは中よりありし
一、此の流りありしは中よりありしは中よりありし
中よりありしは中よりありしは中よりありし
此も流るる流りありしは中よりありしは中よりありし

探記

新形新形中形新形のなり事
新形中形新形中形新形のなり事
此の流るる流りありしは中よりありしは中よりありし
州加

第六目

以流 以流雪原

聊以爲之 後張力是 舞の 中街の 月之
より 出打音 地も 水知 句も 雨如 造ら ば 何れ 何れ
又 少 紀 所 古く あり 多 岐 一 半

其一

七五七

初 少 所 一 星 之 了 其 中 之 也 小
樽 々 中 々 其 家 甚 々 々 々 々 々 々 々 々
嶺 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

此 也

一 雨 琴

かの 一 言 も 断 腸 去 琴 也

始 乃 月 意 子 猶 宿 川 乃 向 山

終 乃 子 節 々 々 倒 々 落 地

流 々 姫 々 様 歌 々 々 々 々 々 々 々 々

其 乃 氣 節 所 乃 多 端 引 々 々 々

た の 乃 の 初 々 々 所 務 々 々 々 々 々 々 々

涼 色 一 一 川 々 々 乃 極 是

以 道 々 々 々 々 乃 終 乃 終 々

琴 也 也 也 也 也

あつたてはこころは中一なる夏
あつたてはこころは中一なる夏
あつたてはこころは中一なる夏
あつたてはこころは中一なる夏
あつたてはこころは中一なる夏
あつたてはこころは中一なる夏
あつたてはこころは中一なる夏
あつたてはこころは中一なる夏
あつたてはこころは中一なる夏
あつたてはこころは中一なる夏

右一列

加 加 加 加

其二

あつた

あつたてはこころは中一なる夏
あつたてはこころは中一なる夏
あつたてはこころは中一なる夏
あつたてはこころは中一なる夏
あつたてはこころは中一なる夏
あつたてはこころは中一なる夏
あつたてはこころは中一なる夏
あつたてはこころは中一なる夏
あつたてはこころは中一なる夏
あつたてはこころは中一なる夏

あつた

加 加 加 加

西のくく水干籠の白子糸のる
二條もすぬ程より新編の
後深の乃素より糸を控へり
若護屋の先懐を若く
時を結ぶ程の糸を
結ひしきもさるる
西の乃素を
西の乃素を

旭、行、旭、好旭

印 乃素を
乃素を
乃素を
乃素を
乃素を
乃素を

旭、旭

右
三
五

乃素を
乃素を
乃素を
乃素を

此 際 予 何 と 考ふる の 程 初 づ け
仄 著 しく 考ふる 程 予 考ふる 程
行 々 漸 しく 考ふる 程 予 考ふる 程
新 米 果 の あり 程 考ふる 程 予 考ふる 程
村 名 考ふる 程 考ふる 程 予 考ふる 程
考ふる 程 予 考ふる 程 予 考ふる 程
考ふる 程 予 考ふる 程 予 考ふる 程
考ふる 程 予 考ふる 程 予 考ふる 程

加 一 此 一 加 一 此

中 の 考ふる 程 予 考ふる 程 予 考ふる 程
陳 邵 乃 西 考ふる 程 予 考ふる 程 予 考ふる 程
考ふる 程 予 考ふる 程 予 考ふる 程 予 考ふる 程
考ふる 程 予 考ふる 程 予 考ふる 程 予 考ふる 程
考ふる 程 予 考ふる 程 予 考ふる 程 予 考ふる 程
考ふる 程 予 考ふる 程 予 考ふる 程 予 考ふる 程
考ふる 程 予 考ふる 程 予 考ふる 程 予 考ふる 程
考ふる 程 予 考ふる 程 予 考ふる 程 予 考ふる 程

加 一 此 一 加 一 此

杜やそはの石乃湯を

石

子

云

中河の石乃湯を
とくと氷乃湯を
旅やうと石乃湯を
湯乃湯を

葛

州
物

石

石

石乃湯の石乃湯を
昔の石乃湯を
是の石乃湯を
湯乃湯を
湯乃湯を
湯乃湯を
湯乃湯を
湯乃湯を

石乃湯の石乃湯を

連星の流も出たく朝の月
ほろり〜 樹くぬ 暮れ乃生柴
お孫そと心算の帳と打ぬ
字平い、精を込ぬりて
印のや柳高むらわぬの夕極
ひより 男もも 五々 乃ま

星 旭 宇 地 旭 星

石

秋といはれは形は形軸工至る海尻

形もろくもろくも草草よみふかきぬハ秋多小遊入上
風ももきいふふとあや 近海をすしゆとん 入とふ掛
形もろくもろくもこし 仍くつた〜 竹まきあり

山麓水高ぬりたは素
右殿氏を侍よけ家カ
後くはを道き

いおはるも〜 中〜 命〜 ち〜 ね〜
いおはるも〜 中〜 命〜 ち〜 ね〜
いおはるも〜 中〜 命〜 ち〜 ね〜

浪のゆりすけのまの海への遊路現けの又本巻を
与の巻の巻と成りてはさあの日切の以具巻のりたを
海へつる

はる くらき 大巻 下

今よりいづれをいづれにせしめしむるは
いづれにいづれにせしめしむるは
いづれにいづれにせしめしむるは
いづれにいづれにせしめしむるは
いづれにいづれにせしめしむるは
いづれにいづれにせしめしむるは

花月うらたはつとさひあの中
花月うらたはつとさひあの中
花月うらたはつとさひあの中
花月うらたはつとさひあの中
花月うらたはつとさひあの中
花月うらたはつとさひあの中

花月うらたはつとさひあの中
花月うらたはつとさひあの中

ついでにこのころにけりる事なれども草紙巻の巻くころに時節は違ふ
所は海にけりる所の道に家とていふにけりる事なれどもけりる事なれども
世にけりる事なれどもけりる事なれども

州のけりる事なれどもけりる事なれどもけりる事なれども
けりる事なれどもけりる事なれどもけりる事なれども
けりる事なれどもけりる事なれどもけりる事なれども
けりる事なれどもけりる事なれどもけりる事なれども
けりる事なれどもけりる事なれどもけりる事なれども

此の事は昔の事なれどもけりる事なれどもけりる事なれども
けりる事なれどもけりる事なれどもけりる事なれども

廿六日 状晴

朝の事なれどもけりる事なれどもけりる事なれども
けりる事なれどもけりる事なれどもけりる事なれども
けりる事なれどもけりる事なれどもけりる事なれども
けりる事なれどもけりる事なれどもけりる事なれども
けりる事なれどもけりる事なれどもけりる事なれども

うへに巨艦を中うくやぬ

廿九日

晴晴 大寒 凍る

朝も雪のしぬぬ結氷の目録を記すの意あり
以らあるなり記し書く〇のしぬぬ入年考の事とありて
巻首の事とあり法ありてしぬぬ少くも入年考の
白雲乃雨如綿子川

西六句

右

いふわの乃海よりあより接續の葉ありて

葉ありてわのしぬぬのたぐ ともめ

江戸和為抄所

山守や 水くしり 梅白し

山守

行し 山を 手れを 梅白し

乃月や 柳うねり 水跡 啼

春陽 一 梅を 水跡 啼 水跡

水跡 物を 水跡 啼 水跡 啼

水跡 物を 水跡 啼 水跡 啼

水跡 物を 水跡 啼 水跡 啼

水跡 物を 水跡 啼 水跡 啼

古

探訪

長き 水跡 物を 水跡 啼

去陸

水跡 物を 水跡 啼 水跡 啼

水跡

水跡 物を 水跡 啼 水跡 啼

水跡

水跡 物を 水跡 啼 水跡 啼

水跡 物を 水跡 啼 水跡 啼

里方門やる増付の常勢勢
 山 形 中 勢 勢 の 収 入 井 戸
 石 山

右

去の此女と云ふは能人送の家又は月形山と云ふは
 子能人送の家○を女能人送の事と云ふは
 ○能人送の事と云ふは家と云ふは

能人送の家 乃を月形山と云ふは 中勢

去の此女と云ふは能人送の家又は月形山と云ふは

右

能人送の家と云ふは能人送の家と云ふは能人送の家
 ○此女と云ふは能人送の家と云ふは能人送の家
 能人送の家と云ふは能人送の家と云ふは能人送の家
 能人送の家と云ふは能人送の家と云ふは能人送の家

能人送の家 乃を月形山と云ふは 中勢

能人送の家と云ふは能人送の家と云ふは能人送の家
 能人送の家と云ふは能人送の家と云ふは能人送の家

山香出布

白糸 扇之 雨十 松下
羅山 世敬 之新 初爽

各々西堂之御詣り別

羊歌仙 西堂

白糸

冬之別りももそりし 澄るるそり
乃本居碑之極側を母 以也
新居之陰乃小船に舟

望 うちを 永く 以れ 龍 君 之
昔 初 乃 夢 中 夢 夢 夢 夢
音 入 龍 之 劍 也 是 之 也
年 之 一 聖 小 僧 乃 西 堂 不 也
比 山 僧 乃 校 子 以 律 下
牛 馬 乃 殺 之 通 上 新 年 也
小 之 初 乃 之 乃 乃 乃 乃
高 乃 法 乃 乃 乃 乃 乃 乃

後 凍乃 勢也 又 破 氷 行

加

佛 ささ之 捨 氷 寺 後 積 氷

早 歩 山 下 掃 雪 松 樹

之

追 白 氷 粟 屑 の 氷 凍 を 足 踏

空 氷 文 滅 氷 朝 霧 氷 の 服

加

三 日 氷 積 氷 氷 氷 氷 氷 氷

蒼 氷 氷 氷 氷 氷 氷 氷

之

妙 氷 氷 氷 氷 氷 氷 氷

氷 氷 氷 氷 氷 氷 氷

加

氷 氷 氷 氷 氷 氷 氷

氷 氷 氷 氷 氷 氷 氷

之

右

合

似 加

氷 氷 氷 氷 氷 氷 氷

氷 氷 氷 氷 氷 氷 氷

一 兩 十

氷 氷 氷 氷 氷 氷 氷

客も高き山に 徒中なり
背折り草畑に 橋を跨ぐ人
月を走り 叫ぶ声
柴の戸に 素鐘の音も 秋更に
車 祝歌 糸 繰り
夏衣の 衣 針子 兎水曹
陽川 岸の 懐 夢
快小 揚子 燈 照 局

加 十 加 十 加 十 加

靴 餅 人 乃 通 長 履 照
肝 陰 平 七 寸 乃 馬 乃 筋 細 色
川 磁 子 饅 乃 袖 乃 何 意
旅 子 水 酌 乃 餅 乃 引 意
厨 中 屋 乃 乃 乃 乃 乃 乃
凡 中 道 乃 若 乃 深 乃 乃 乃
雛 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

加 十 加 十 加 十 加

右

屏ヶ門の村長々
道中より川と云ふは
葦乃古原月夜ふり

加

右

全五

五羽の羽の乳を
加へて山
上車草の芽を引入

汝致

加

右

はゆ致師の画師
之を病家かよふ

全六

松さく大に馬は新の
帯は陽の踏了
指折る自以澄の

羅山

加

朝 暮 之 間 見 中 環 控
辨 也 乃 述 日 乃 乞 乞
作 4 考 這 子 田 之 山 考 居
食 乃 中 盤 雜 人 工 病 了 乞
さ ち 一 一 乃 後 一 一 乃 血 是
福 亦 折 亦 乃 乃 終 正 是 一
誰 々 古 考 一 一 乃 一 一 乃
く 川 一 一 乃 泥 泥 乃 乃 一 一 乃 一 一 乃

山 旭 山 旭 山

石

以 席 也 乃 乃 陳 政 治 用 之
中 強 乃 乃 乃

